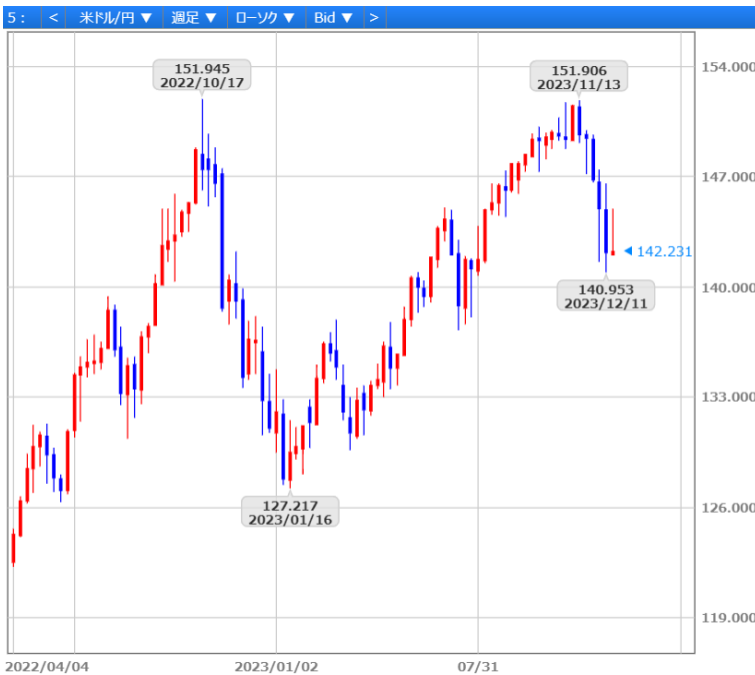


① 米ドル

昨日発表されたコア CPE が予想の+2.3%に対して+2.0%。  
 同じく米個人消費の伸びが予想の+3.6%に対して+3.1%。  
 どれも金利低下要因となります。  
 これらを受けて米ドルは軟化。  
 1ドル=142.20-25 円で終了しています。  
 やはり来春に向けて円高ドル安となりそうです。



## ② トルコ

※参照:日経電子版

トルコ中央銀行は 21 日、金融政策決定会合を開き、主要政策金利の 1 週間物レポ金利を 2.5%引き上げ、年 **42.5%**とした。利上げは 7 会合連続。声明で近く利上げを終了する考えを示し、今後は打ち止めの時期が焦点となる。

6 月以降の利上げ幅は計 34%となった。中銀は声明で「国内需要やサービス分野のインフレは根強い」とする一方、一連の引き締め策で、過熱気味の内需が沈静化しつつあるとも評価。「できるだけ早期」に利上げサイクルを終了するとの見通しを明らかにした。

市場では、2024 年 1 月ごろに 45%まで引き上げた後、打ち止めになるとの見方が強い。

現地の運用会社 TEB アセット・マネジメントのヒュセイン・アカル氏は「45%の金利は消費の抑制につながる。**1 年後の予想インフレ率を 41%とみた場合、米国と比べても投資家にとって魅力的な実質金利水準になる**」と説明する。インフレは 24 年 5 月ごろがピークとみられ、アカル氏は年後半に利下げが始まるとみる。

## ③ 資生堂

4169 円 +96 円。

日経平均の大幅下げにもかかわらず逆行高。

【資生堂:2 年】



#### ④ GOLD

※参照:日経電子版

24年11月に控える米大統領選挙で「仮にトランプ氏が大統領になれば、米国第一主義を鮮明にし、米中関係の悪化を招くほか、ウクライナや中東への軍事支援を減らす可能性がある。金融政策の転換期に世界情勢の不安をもたらす『もしトラ』リスクが共振すれば金価格を押し上げる要因になる」(マーケットアナリストの豊島逸夫氏)。

財政問題もくすぶる。米連邦政府の公的債務残高が一段と積み上がり 33兆ドル(4700兆円)を超えた。投資家の「悪い金利上昇」の意識や、米国債の格下げリスクがぬぐえない。基軸通貨の米ドルの信認低下は金への資金流入を促す。

「金は嵐の晩に輝く」



#### ⑤ 金貨

高鑑定銀貨に対する反響、どうもありがとうございます。

- ・ ミドルザベス 2ポンド金貨 PF70UC
- ・ 2021・2022年 オランダ シルバーライダー1オンス金貨 PF70UC
- ・ 1915年 オーストリア 4ダカット金貨 リストライク MS69・70

年内にぜひどうぞ。

ご購入の方はお声がけください。

## ⑥ 東証リート指数

1780 ポイントと続落。

【東証リート指数:2年】

